

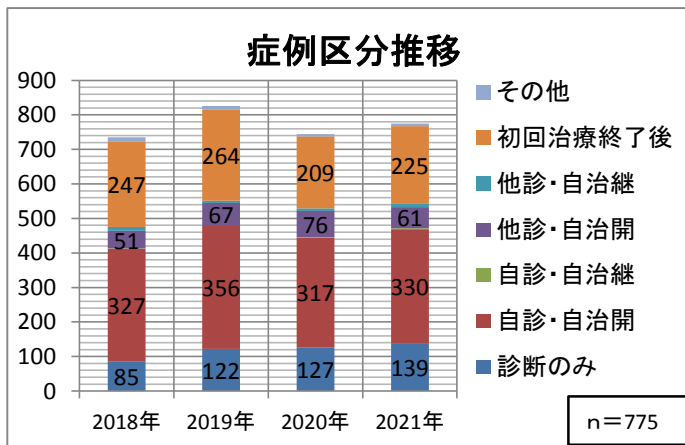
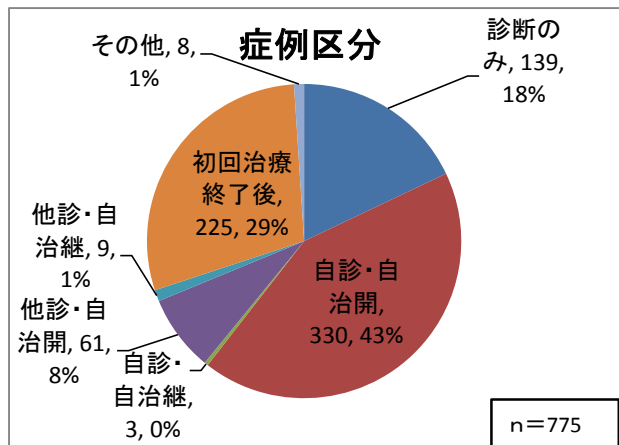
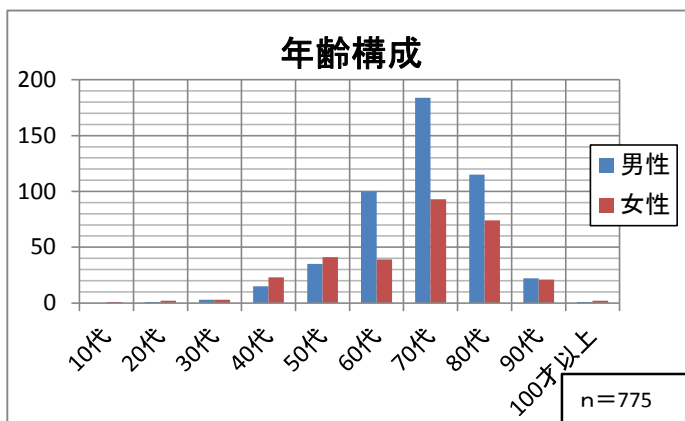
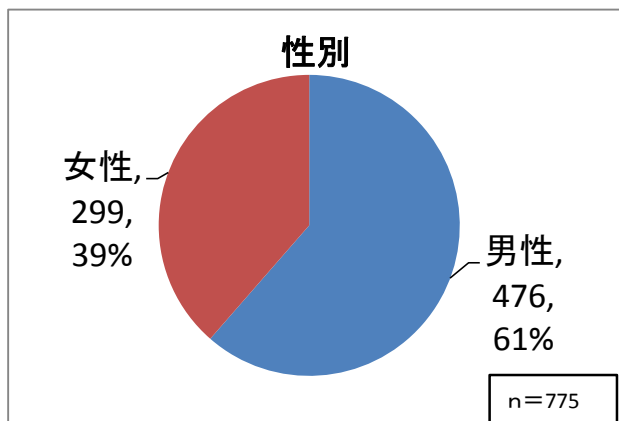
# がん登録 2021年症例報告

## 1.はじめに

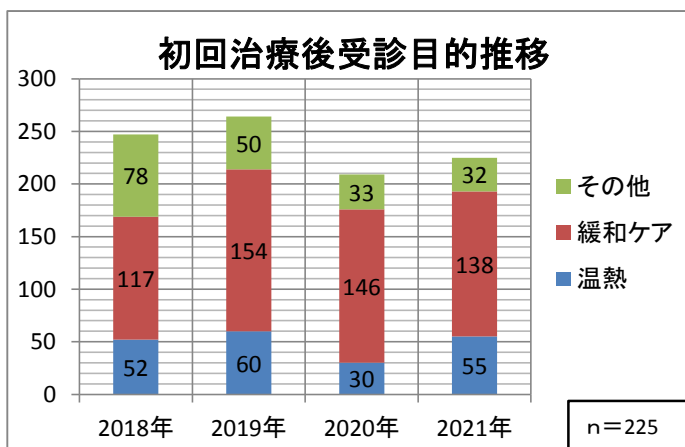
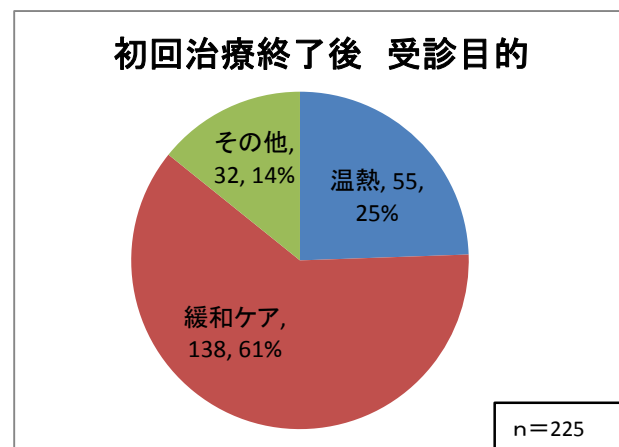
がん登録とは、国のがん対策の基礎となる、がん患者数、罹患率、生存率、治療効果などを把握することを目的に、がん治療のために病院を受診した患者さんの治療内容、治療効果、予後などの情報を集め、把握・分析する仕組みです。患者さんへの的確な情報提供や、次のがん対策のための基礎資料としてがん登録は必要不可欠なものです。国が指定する登録様式(がん診療連携拠点病院等院内がん登録標準登録様式2016年版)に準拠して、院内がん登録を実施することが義務付けられています。

## 2. 集計表について

この集計表は、国が指定する院内がん登録標準登録様式2016年版に準拠して登録されたデータを使用して、JR広島病院の部位別のがんの件数や部位別のがんの拡がりごとの治療法を示しています。1腫瘍1登録、入院・外来を問わず、自施設において、当該腫瘍について初診し、診断及び/又は治療等の対象となった腫瘍を集計しています。

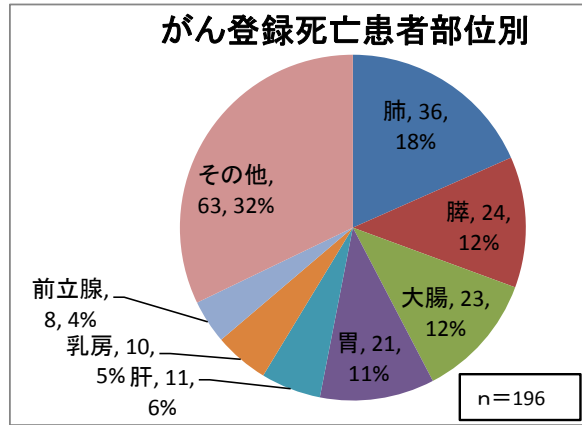
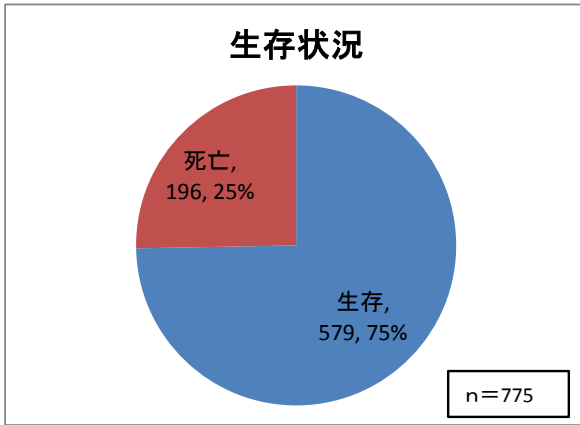


2020年症例と比べ登録件数が増加しました。症例区分に変化はなく、それぞれの割合は例年通りです。

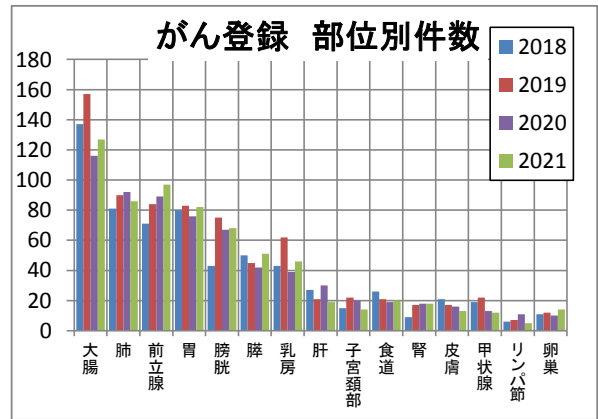
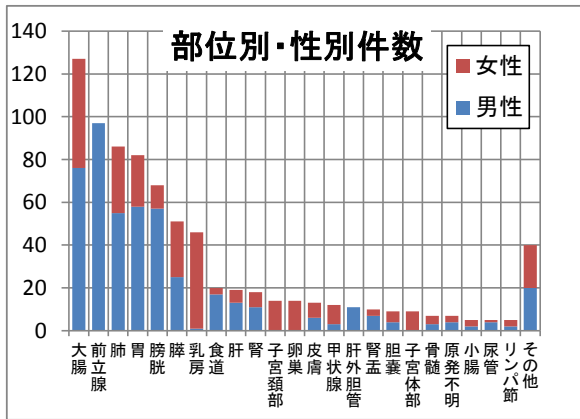


当院で治療開始後、緩和ケアや温熱療法に移行した患者は含まれません。他院より緩和ケア・温熱療法・フォロー等で当院を受診し、相談のみの患者は含まれます。

2020年症例は温熱療法の割合が減少し緩和ケア割合が増加しましたが、2021年症例は例年と同様、温熱療法が全体の約25%を占めています。

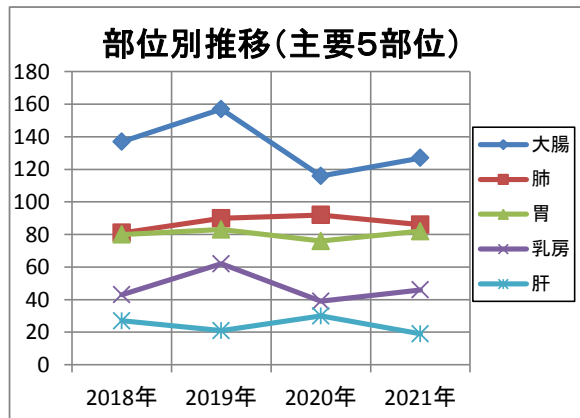
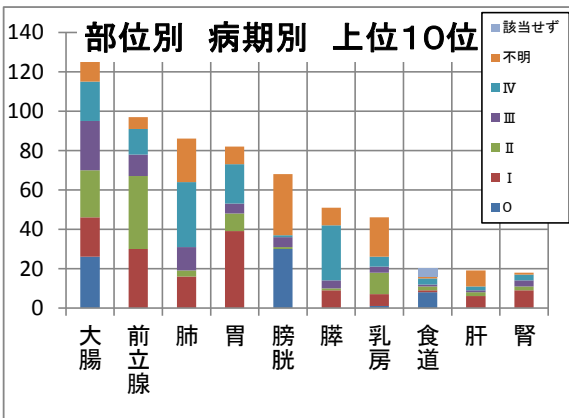


1人が同年に重複がんの診断を受けた場合、複数登録があります(件数≠人数)。  
 その上で、過去6年間、死因第1位は肺がんですが、2位以降は部位が変動しています。



例年登録の多い部位のうち、大腸・前立腺・胃・膀胱・膵・乳房は2020年症例に比べ件数が増加していますが、肺・肝は減少しています。

	病期							計
	0	I	II	III	IV	不明	該当せず	
1 大腸	26	20	24	25	20	12		127
2 前立腺		30	37	11	13	6		97
3 肺		16	3	12	33	22		86
4 胃		39	9	5	20	9		82
5 膀胱	30		1	5	1	31		68
6 膵		9	1	4	28	9		51
7 乳房	1	6	11	3	5	20		46
8 食道	8	1	2	1	3	1	4	20
9 肝		6	2	1	2	8		19
10 腎		9	2	3	3	1		18
総計	65	136	92	70	128	119	4	614



2020年症例は温熱療法の割合が減少し緩和ケア割合が増加しましたが、2021年症例は例年と同様、温熱療法が全体の約25%を占めています。

2020年症例と比較し、部位別・病期別の構成に変化はありませんでした。

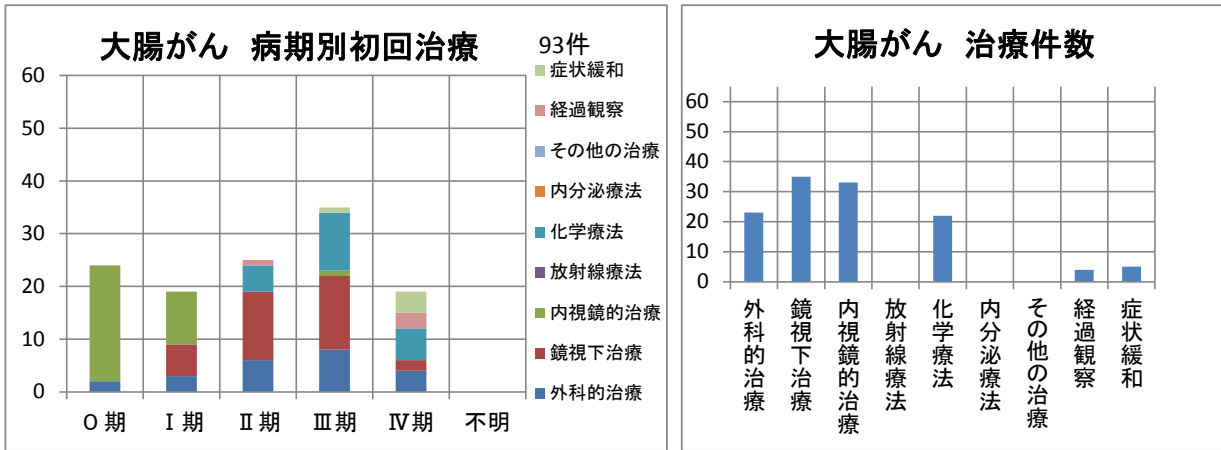
**院内がん登録における治療の定義**

当該腫瘍の縮小・切除を意図したがん組織に対する治療のうち、当該腫瘍に関する最初の診断に引き続き行われた、腫瘍に対する治療とします。

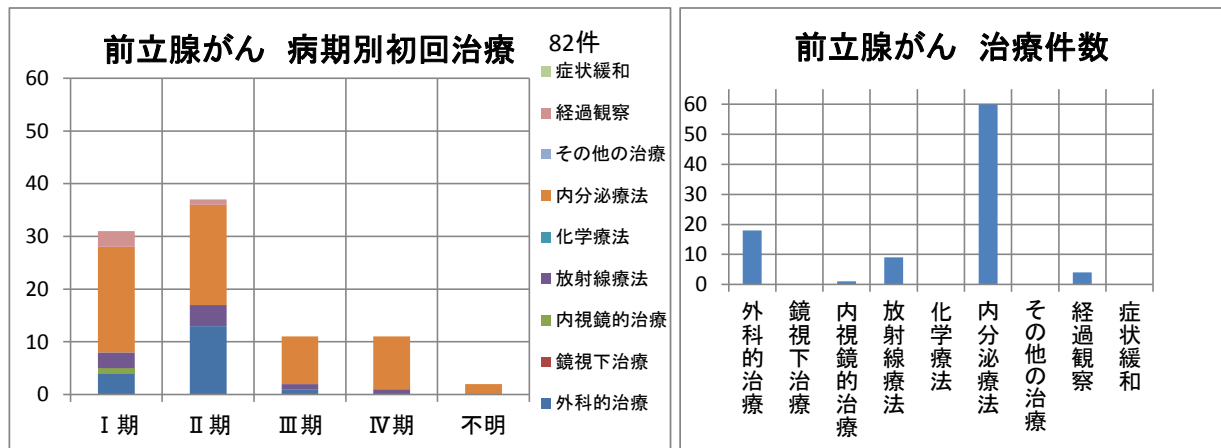
- ・外科的治療とは、開腹手術によりがんを切除する治療です。
- ・鏡視下治療とは、胸腔鏡下・腹腔鏡下手術によりがんを切除する治療です。
- ・内視鏡治療とは、体表に切開を全く加えることなく内視鏡下にごんを切除する治療です。

**症例区分 自施設初回治療実施症例・病期別治療と治療件数**

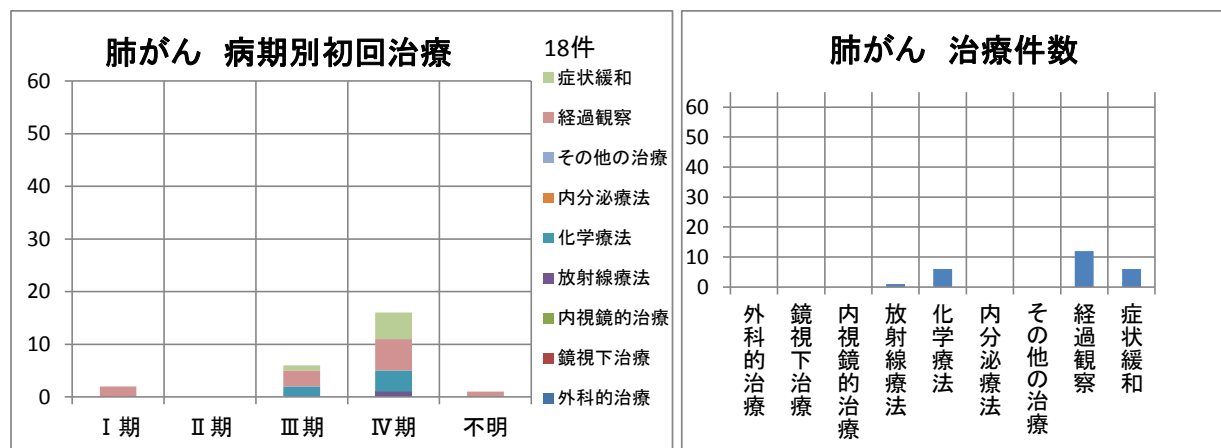
- ・全登録部位上位10位における「初回治療開始」「初回治療継続」症例を示しています。
- ・複数の治療を組み合わせている場合もありますが、個別にカウントし集計しています。



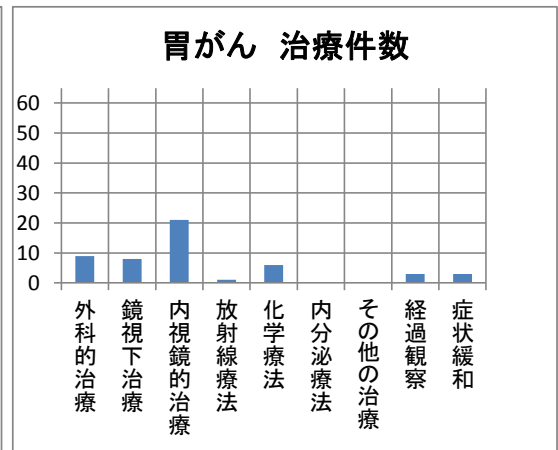
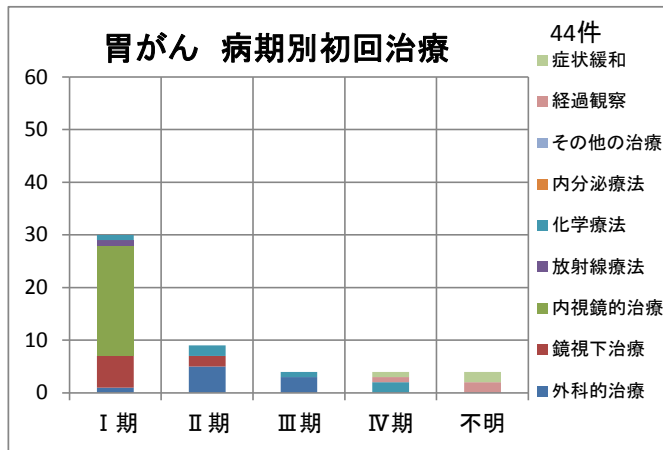
大腸がん手術で偶然発見された早期がんのため、0期で外科的治療をカウントしています。



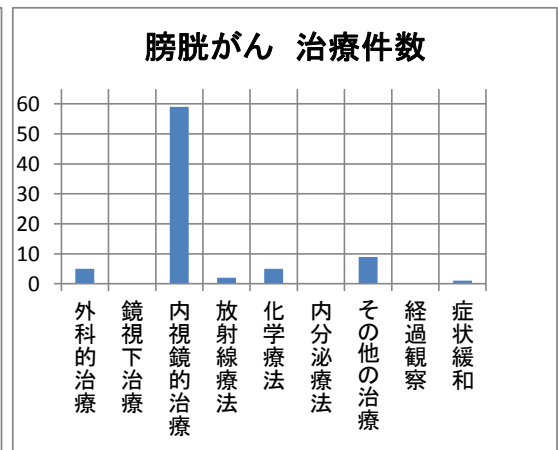
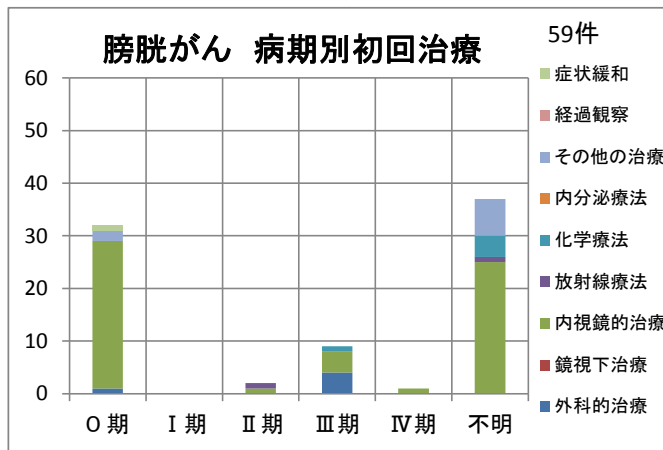
がん登録のルール上、「去勢術」は、内分泌療法に含まれます。件数が増加傾向にありますが、治療法に変化はありません。



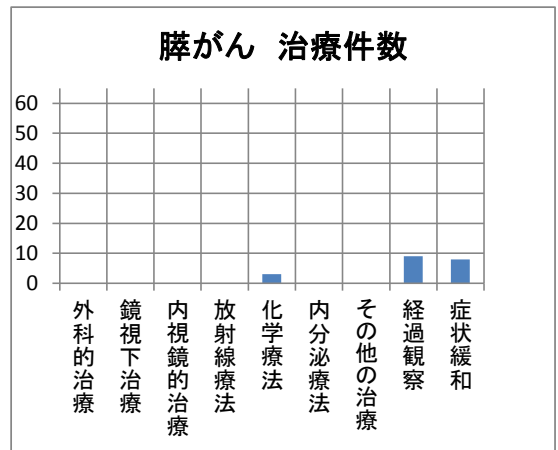
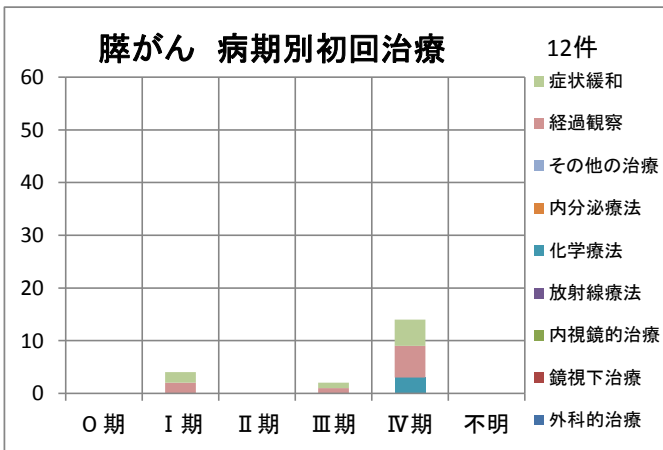
当院では、呼吸器外科手術を行っておらず、切除不能肺がんの化学療法・HIPRACでの放射線療法を受ける患者の窓口です。化学療法のみを行う症例と経過観察と症状緩和を組み合わせる症例があります。



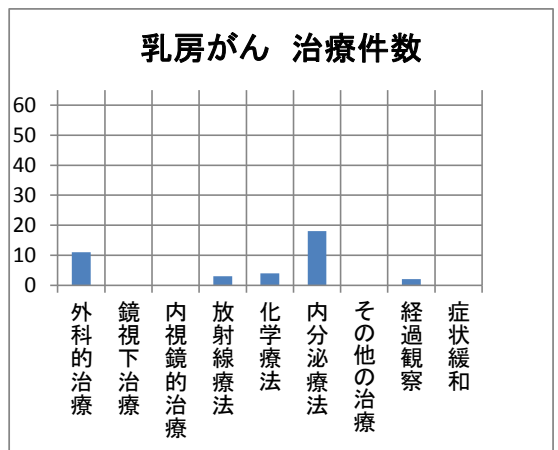
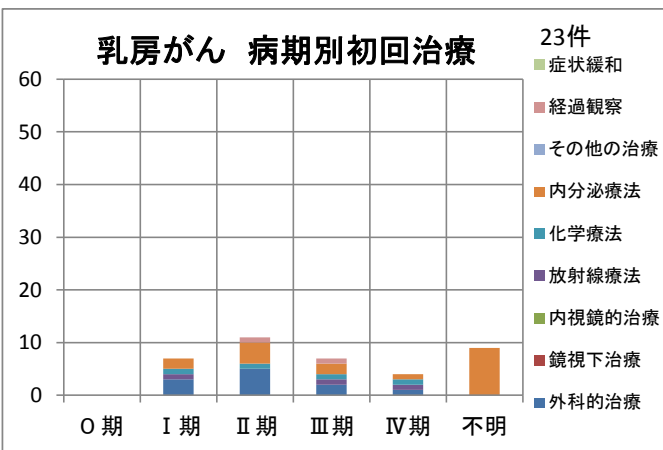
比較的早期の段階で診断され、内視鏡的治療が多いです。



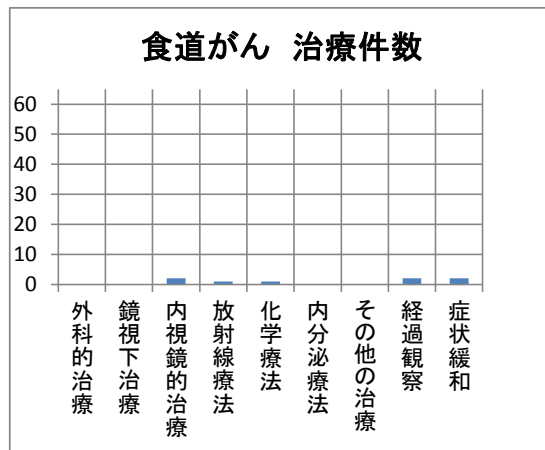
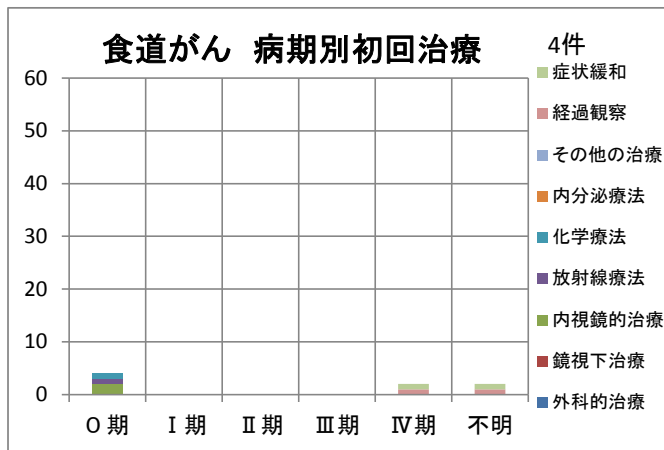
がん登録のルール上、「pTa」以外では「pTX(情報なし)」をつけることになっているため、結果として「病期不明」となります。「その他の治療」にBCGが含まれます。治療内容に変化はありませんでした。



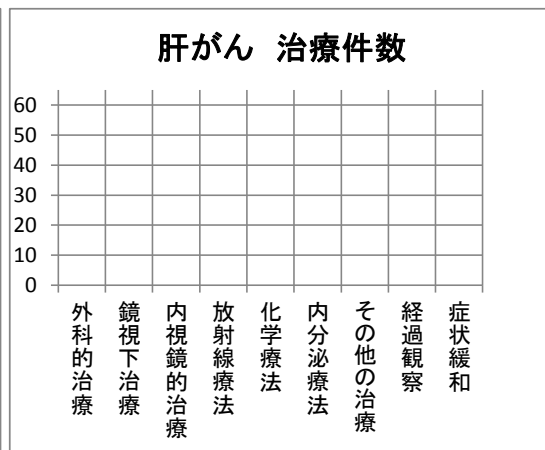
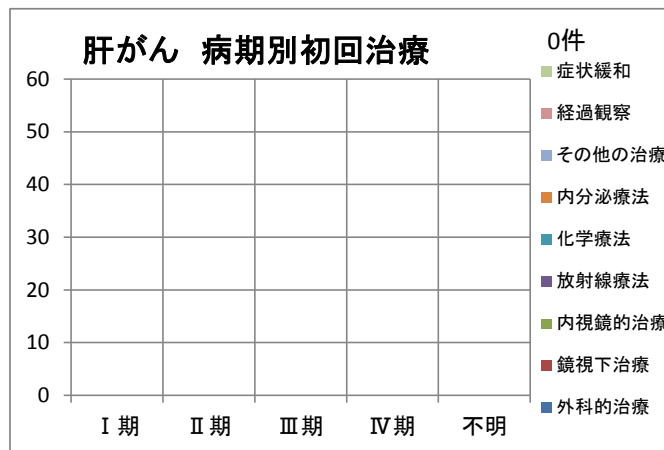
当院では診断後、主に高次医療機関に紹介しています。当院治療症例では経過観察と症状緩和が比例しています。



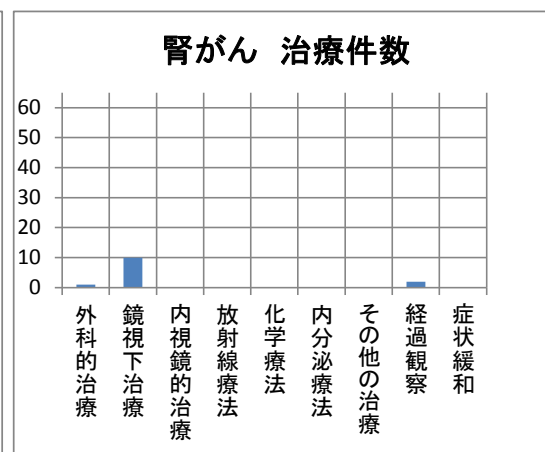
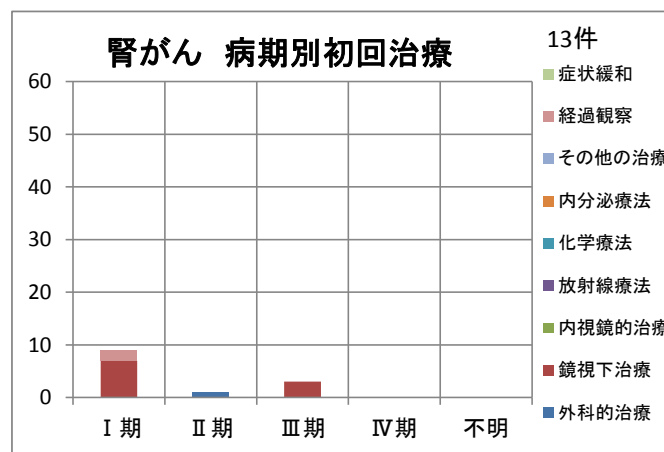
内分泌療法が増加していますが、持参薬による治療症例の登録が増加したためです。



当院では診断後、主に高次医療機関に紹介しています。当院治療症例では非観血的治療を中心に治療を行っています。



登録件数は上位10位以内にあります、「診断のみ」「初回治療終了後」症例のみで、当院で治療をした症例はありませんでした。



当院集計開始後、今回、初めて10位以内になりました。主に鏡視下の治療を行っています。